

泣き崩れるペテロ

マルコの福音書 14 章 66-72 節

はじめに

今日から「受難週」となります。イエス様の復活を記念する「イースター」までの一週間は受難週と呼ばれ、イエス様の十字架とその苦しみを覚える期間となっています。

そこで今日の説教は、イエス様が十字架に架かれる時に経験された苦しみについてお話しします。中でも、イエス様が十字架で経験された「孤独」についてお話ししたいと思います。

イエス様には十二人の弟子がいました。しかしイエス様が捕らえられると、弟子たちは皆、イエス様を見捨てて逃げてしまったのです。弟子のひとりのイスカリオテのユダは、イエス様を引き渡すために、お金で売ることさえしたのです。これは大変な裏切りです。

イエス様は、三年間共に過ごした弟子たちに裏切られ、見捨てられ、一人で十字架へと向かわれたのです。

1. イエスを知らないと呪いをかけて誓うペテロ

イエス様の一番弟子であったペテロは、イエス様が捕らえられる数時間前に、こんなことを言っていました。「たとえ皆がつまずいても、私はつまずきません」(14:29)「たとえ、ご一緒に死ななければならないとしても、あなたを知らないなどとは決して申しません」(14:31)。ペテロは、命を懸けてイエス様に付いて行くと宣言していたのです。

しかしそんなペテロに、イエス様はこう言われました。「まことに、あなたに言います。まさに今夜、鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います」(14:30)。今日の聖書箇所は、イエス様がペテロに言われたこの言葉が現実となるという出来事が書かれています。

命を懸けてイエス様に付いて行くと宣言したペテロは、イエス様が捕らえられると、イエス様を見捨てて逃げてしまいました(14:50)。しかしイエス様がその後どうなるのかが気になって、遠くからイエス様の後を付いて行ったのです。

イエス様は当時の宗教裁判にかけられていました。そこでイエス様は、御自分が神の子キリストであると証言したことによって、死刑を宣告されました。そして、唾をかけられ、目隠しをされて拳や平手で殴られました。

そんなイエス様の姿を、ペテロは人々に紛れて遠くから見ていたのです。すると一人の女性が、ペテロの顔をじっと見て、「あなたも、ナザレ人イエスと一緒にいましたね」と言い出したのです。するとペテロは「何を言っているのか分からない。理解できない」と動揺しながら

否定して、その場から離れたのです。すると鶏が一度鳴いたのです。

しかしその女性は、ペテロをしつこく追いかけて、周りの人にも「**この人はあの人たちの仲間です**」と言いつらしたのです。それでもペテロは否定しました。

すると今度は、周りの人が「**確かに、あなたはあの人たちの仲間だ。ガリラヤ人だから**」と周りの人も騒ぎ出したのです。

ついに追い詰められて、このままでは逃げ切れないと思ったペテロは、「**嘘ならのろわれてもよいと誓い始め、『私は、あなたがたが話しているその人を知らない』**」と言ったのです。するとその時、鶏がもう一度鳴いて、ペテロはイエス様の言葉を思い出したのです。「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います」。この言葉を思い出したペテロは、その場から立ち去って「泣き崩れる」たのです。

2. ペテロの本当の姿を知っておられるイエス

この出来事から教えられることの一つは、イエス様はペテロよりも、ペテロのことをよく知っておられたということではないでしょうか。

ペテロは、自分はどんなことがあっても、命を懸けてイエス様に付いていける人間だと思っていました。自分のイエス様に対する愛情は誰よりも深い、自分のイエス様に対する信仰は誰よりも強い、そう思っていたのです。自分がイエス様を見捨てる、裏切るなんて夢にも思わなかったでしょう。

しかしペテロは、不意に訪れた試練の中で、イエス様か自分の命かという選択を迫られた時、自分の弱さ、自分の信仰、自分の本当の姿が現れたのです。その姿は、ペテロも想像できなかった自分の姿だったでしょう。その自分の本当の姿が悲しくて、情けなくて、またイエス様に対して申し訳なくて、ペテロは泣き崩れたのでしょ

しかしイエス様は最初から、ペテロの本当の姿を知っておられたのです。ペテロよりも、ペテロのことをよく知っておられたのです。ペテロが自分で気付かない弱さ、信仰まで、イエス様はすべて知っておられたのです。

イエス様は、全知全能の主なる神様です。イエス様は、私たちよりも、私たちのことをよく知っておられます。私たちが自分では気付かない私たちの弱さも、私たちのイエス様に対する愛も信仰も、すべて知っておられます。

私たちは、自分のことは自分がよく知っているかと思っています。しかし、ペテロのように、不意に訪れた試練の中で、ある選択を迫られた時、私たちの弱さや信仰や愛が見えて来るのです。私たちの本当の姿が見えてくるのです。

追い詰められた試練の中で、財産かイエス様かの選択を迫られた時、また家族かイエス様かの選択を迫られた時、また自分の命かイエス様かの選択を迫られた時、私たちの本当の姿が見えてくるのです。本当は自分が何に価値を置き、何に依存し、何に寄り頼んで生きてきたのかが見えてくるのです。

平穩無事な生活の中では、私たちの本当の姿は見えてきません。しかしイエス様は、私たちの本当の姿を知っておられます。本当は私たちが何に価値を置き、何に依存し、何に寄り頼んで生きているのかをすべて知っておられるのです。イエス様は、私たちよりも、私たちのことをよく知っておられるのです。

3.「さあ行って、ペテロに伝えなさい」

ペテロは、追い詰められた試練の中で、自分の本当の姿を知りました。自分が思っている以上に、自分は弱く脆いことを知りました。そんな自分が悲しくて、情けなくて、イエス様に対して申し訳なくて、ペテロは泣き崩れたのです。

イエス様は、そんなペテロをどう見られたのでしょうか。イエス様はこの後、十字架に付けられて死に、墓に葬られました。しかし三日目に、主なる神様の御力によって、墓の中からよみがえられたのです。

そしてイエス様は、御使いを通してこのように言われるのです。「**驚くことはありません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められていた場所です。さあ行って、弟子たちとペテロに伝えなさい。『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます』(16:6-7)**。イエス様は、ペテロにまた会おうとされます。自分を見捨て、自分を知らないと言ったペテロに、また会おうとされるのです。イエス様は、すでにペテロを赦しておられるのです。そしてペテロを受け入れておられるのです。

なぜでしょうか？なぜイエス様は、自分を見捨て自分を裏切ったペテロを赦し、受け入れることができたのでしょうか？イエス様が愛に満ちた方だからでしょうか？確かにそうかもしれません。確かにイエス様は愛に満ちた方です。

しかしペテロは、神様に誓って「自分はイエス様を知らない」と言いました。そして「もし嘘なら神様に呪われてもよい」とまで言いました。このペテロの罪は見逃すことのできないものです。イエス様は、このペテロの罪を寛容な心で目をつぶり、見逃されたのでしょうか。それがイエス様の愛なのでしょうか。もしイエス様がペテロの罪に目をつぶり、見逃しただけなら、イエス様の正義はどこに行ってしまうのでしょうか。正義のない愛は、本当の愛と言えるのでしょうか。正義のない愛は、甘やかしているだけではないのでしょうか。正義のない愛に、人を本当に変える力はないと私は思います。

ペテロの罪は見逃すことはできません。ペテロは自分の罪の責任を負って、神様に呪われなければなりません。神様に捨てられなければなりません。しかしイエス様は、ペテロに代わって神様の呪いを受けられ、神様に捨てられたのです。それが、イエス様の十字架の死の意味です。

十字架は、裁きと呪いを意味します。イエス様は、私たちの罪のために、私たちに代わって神様に裁かれ、呪われ、捨てられたのです。イエス様は正義と愛の両方を満たされました。

私たちの罪を、ただ目をつぶって見逃すのではなく、しっかりと私たちの罪を見つめ、その罪の償いを私たちに代わって果たしてくださったのです。私たちの罪は、ただ目をつぶって見逃されたわけではありません。イエス様が私たちの代わりに、私たちの罪を十字架で償ってくださったのです。だからこそ、今私たちは、神様を礼拝することができるのです。イエス様が私たちに代わって償ってくださらなければ、私たちは神様に裁かれ、呪われ、捨てられる絶望的な存在なのです。

イエス様は、ペテロが受けるべき神様の呪いを、十字架でペテロの代わりに受けられたのです。だからこそイエス様は、ペテロにもう一度会おうとされたのです。

ではペテロはどうでしょうか。ペテロはイエス様に会いに行ったのでしょうか。イエス様に会いに、ガリラヤまで行ったのでしょうか。マタイの福音書を見ると、ペテロを含めた11人の弟子たちは、イエス様に会いにガリラヤに行き、イエス様と会い、イエス様を礼拝したとあります。

ペテロは、イエス様の招きに応えました。私たちもイエス様の招きに応えなければなりません。イエス様は、神様に対する私たちの罪を償うために十字架で死なれ復活されました。そのイエス様の愛に、私たちは応えなければなりません。イエス様が私たちに求めておられるのは、自分の罪を悔い改めて、イエス様を信じることです。イエス様を自分の救い主と信じて、自分の口で「信じます」と告白することです。そうすれば私たちのすべての罪は赦され、神様の裁き、呪いから救われます。

そしてイエス様は、イエス様を信じる私たちにこう言われます。「**だれでもわたしに従って来なければ、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音のためにいのちを失う者は、それを救うのです**」(8:34-35)。またこうも言われます。「**わたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子ども、畑を捨てた者は、今この世で、迫害とともに、家、兄弟、姉妹、母、子ども、畑を百倍受け、来るべき世で永遠のいのちを受けます**」(10:29-30)。

おわりに

私たちは、イエス様の愛に、イエス様の招きに応えなければなりません。イエス様は、誰よりも孤独を経験されました。親しい弟子たちに裏切られ、見捨てられ、知らないと言われました。そして私たちの罪の償いのために、神様に裁かれ、呪われ、捨てられました。イエス様は、神様にも人にも見捨てられ、孤独の極みを経験されました。

それは、私たちを救うためです。自分の本当の姿に絶望し、泣き崩れる私たちを立ち上げらせ、もう一度新しい人生を歩ませるためです。

私たちは、イエス様の愛を、イエス様の招きを無視することはできません。あなたはイエス様にどのように応えるでしょうか。